

第十四回福島県養護教育センター研究発表会のお知らせ

子供たち一人一人の

『思い』や『願い』について

一緒に考えてみませんか？

当センターでは、今年度「視点と展望をもって足場を組み、願いを追求する研究」を目標に、養護教育における普遍的な課題と今日的な課題について調査・研究を実施しています。

今年度の成果を左記により発表いたしますのでご案内いたします。

一期 日
平成十二年二月十六日(水)
二 会 場
福島県ハイテクプラザ

(郡山市片平町)

三 内 容
◆研究発表(9:45~12:00)

ひげのすすめ

森 幸彦

チャイム



写真の如くひげがある。写真の如くはげである。ひげを蓄え始めたのは六年前の

◆プロジェクト研究発表

▽「養護教育における『個別の指導計画』に関する研究」

当センター作成の「個別の指導計画」の書式試案及び作成システムモデルに基づく実践研究発表。

▽「早期教育相談システムに関する研究」

医療、福祉、教育関係者たちとの地域に根ざした早期教育ネットワークシステムづくりに向けた実践研究の発表。

◆教育実践研究発表

▽「一人一人を大切にしている教育実践を目指して」(仮題)

玉川村立玉川第一小学校 特別な教育的援助を必要とする子供たち (ADHD、LD児等) の支援

博物館勤務当時。徹夜続きでひげを剃る暇もない忙しさを上司にアピールするつもりで伸ばしたのがきっかけだ。はげ始めたのは二十年前だが、こちらの方は特に理由があったわけではない。

博物館では「縄文時代研究者」としてひげに違和感が無かったものの、二年前からの教育庁勤務、食堂やエレベーターの中では異形をいぶかる視線を感じる。明治時代の官吏は多くひげをステイタスとしていたものだが、現代のお役所では流行らないらしい。老母が転勤時に床屋代をくれたが、酒に化けてしまった。

援に、学校としてどう取り組んできたかを発表。

◆ポスター発表

養護教育に関する情報教育研究や長期研究員による研究の発表等

講演 (13:00~14:30)

演 題 「特別なニーズ教育」とは何か(仮題)

講 師 宮城教育大学 教授 清水 貞夫 先生

今後の養護教育の在り方を考える上でその指針となるであろう「特別なニーズ教育」の概念やその進展に向けてのお話をいただく予定です。著書には、「特別な個別指導計画」を考える、「軽度」精神遅滞の教育計画」など多数。

四 案内通知

○第二次案内(一月初旬ころ)
*お問い合わせは、当センター

戦後はアメリカのスマートな文化の影響を受けてか、ひげ＝原始的⇨否、さっぱり系⇨文化的⇨是という感がある。一方、宗教家やナチュラリストにはひげが多い。

縄文時代の土偶にはひげらしき表現が窺えるものもある。アイヌ民族もひげに誇りを持つている。アチ文明派の象徴ともいえる。ひげの生え方は人それぞれ多様で、個性を強調するには格好の素材である。個性を尊重する教育を標榜する皆さまにも是非「ひげ」をお勧めしたいものである。

〔県教育庁文化課 文化財センター整備班〕

事業部研究担当まで
☎〇二四(九五二) 六四九七

『福島県視聴覚ライブラリー』の利用案内

福島県では、視聴覚教育の振興と、県民の皆さんの学習に役立てていただくため、福島県視聴覚ライブラリーを設けています。ライブラリーでは、県民の皆さんや公民館、学校に対して視聴覚ソフトの貸し出しを行っています。

現在ある視聴覚教材は、一六ミリフィルム九一九本、ビデオテープ七二九本をはじめ、関係団体からの委託視聴覚ソフトが四〇七本です。

これらの教材の目録は、各市町村の教育委員会や公民館にありますので、利用希望の方は、お問い合わせの上ご覧ください。

利用したい教材がありましたら、電話で申し込むか、直接ライブラリーまでお出かけください。利用できる教材は一回に三本以内で、一週間程度(輸送機関を除く)です。

また、貸し出しは無料ですが、教材の送付を希望する場合は、送料は往復とも利用者負担となります。ご利用をお待ちしております。

【問い合わせ先】

◇〒960-8003 福島市森合豆西養山一(福島県立図書館内)

◇電話 〇二四(五三二)二三九五
◇受付時間 毎週月～金曜日
午前十時～午後四時三十分